



IDE-JETRO

日本貿易振興機構アジア経済研究所業績評価委員会  
(2024年度分評価)

## 実施結果

日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所

2025年6月

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要..... p. 3
2. 外部業績評価の結果..... p. 8

# **1. アジア経済研究所外部業績評価の概要**

# 1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

## 外部業績評価を実施する背景

- アジア経済研究所は、国立研究開発法人に準じた形で評価を実施。
- 評価軸 2 および 3 は、アジア経済研究所業績評価委員会からの総合評価を受けることとしている。

### 第6期中期目標（アジ研部分 抜粋）

#### 学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献

アジア経済研究所は、学術研究によって蓄積された研究資源を活用し、効果的かつ効率的な幅広いアウトリーチ活動を通じて、我が国の政策担当者や産業界、メディア並びに国民各層、更には新興国・途上国地域の政府、産業界、市民社会等にも幅広く積極的に研究成果を還元し、我が国企業の貿易投資の拡大並びに我が国政府の通商政策立案の基盤となる質の高い分析と情報を提供する。

政策立案への貢献に当たっては、新興国・開発途上国地域の動向や経済・社会課題等に関する政策課題について、世界水準の学術研究に基づき政策担当者の理解の促進・深化に寄与するほか、現時点で顕在化していない中長期的な政策課題にもなり得るアジェンダを提示することなどにより、政策立案への広範な貢献を果たす。

評価軸（1）による評価

アジ研業績評価委員会による評価対象

#### 付加価値の高い学術研究成果の創出と蓄積

アジア経済研究所は、前項に示した「学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献」を実現するため、新興国・開発途上国地域を中心とした政治・経済・社会情勢等についての中長期的かつ革新的な視点に立った分析を通じて、大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な研究活動を実施し、世界の公共財となり得る付加価値の高い研究成果の創出と良質な研究資源の蓄積を行う。

研究活動の実施に当たっては、高い専門性をもつ多様な研究者の集積という強みと学術研究ネットワークを最大限に活用し、国際的な政治・経済・社会秩序の急速な変容や技術革新がもたらす産業構造や企業行動の変化並びにこれらが我が国を含めた国際社会に与える影響等について、国・地域・分野を横断した研究を行う。また、人権や環境など持続可能性や包摂性の追求が問われる地球規模の課題について、我が国の国益に資するのみならず、世界の発展への貢献に繋がる研究成果を創出する。

評価軸（2）による評価

アジ研業績評価委員会による評価対象

#### 国際的な研究ハブ機能と学術情報プラットフォーム機能の発揮

アジア経済研究所は、上記目標の実現と世界への知的貢献を行うため、国際的な研究ハブとしての機能を強化する。具体的には、国際機関や国内外の第一級の研究機関・研究者等と連携した学術研究活動を推進するとともに、国内外の卓越した研究人材の活用や開発途上国地域の人材育成を通じて、研究ネットワークを深化・拡充させる。また、図書館の資料情報基盤整備や情報発信機能の強化を通じて、新興国・開発途上国地域に関する学術研究の知的基盤をなす公共財として、学術情報プラットフォーム機能を発揮する。

評価軸（3）による評価

## 1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

### 評価軸、評価/モニタリング指標

- アジア経済研究所業績評価委員会による評価結果は、モニタリング指標の一つ。
- 評価軸（2）,（3）ともに、アジ研業績評価委員会による総合評価を踏まえてジェトロが自己評価のうえ、経済産業大臣へ提出。

#### アジア経済研究所の評価軸と指標（抜粋）

##### 評価軸（2）大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか

|          |                                                   |
|----------|---------------------------------------------------|
| 評価指標     | ・ 具体的な先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果の創出状況                   |
| モニタリング指標 | ・ 誌上、ウェブサイト上または口頭での論文発表件数                         |
|          | ・ 創出された研究成果の外部評価（ <b>アジア経済研究所業績評価委員会による総合評価</b> ） |

##### 評価軸（3）国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか

|          |                                                        |
|----------|--------------------------------------------------------|
| 評価指標     | ・ 新たに形成した又は維持している学術ネットワークの量と質                          |
|          | ・ 学術情報センター等における学術情報の蓄積と運用状況および活用状況                     |
| モニタリング指標 | ・ 国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数                              |
|          | ・ 研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数                              |
|          | ・ 実施した学術ネットワーク活動の外部評価（ <b>アジア経済研究所業績評価委員会による総合評価</b> ） |
|          | ・ 学術情報・データ蓄積等の発信（掲載）・アクセス件数・ダウンロード件数                   |

## (参考) モニタリング指標実績一覧 (評価軸 2, 3)

| 評価軸および指標                                            | 2024年度 | (2023年度) |
|-----------------------------------------------------|--------|----------|
| 評価軸 (2) 大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか |        |          |
| 誌上・ウェブサイト上または口頭での論文発表件数                             | 514件   | (545件)   |
| 創出された研究成果の外部評価 (業績評価委員会による総合評価)                     | 4.95点  | (4.8点)   |
|                                                     | 定性的評価  | (定性的評価)  |
| 評価軸 (3) 国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか    |        |          |
| 国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数                             | 210件   | (184件)   |
| 研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数                             | 22件    | (19件)    |
| 実施した学術ネットワーク活動の外部評価 (業績評価委員会による総合評価)                | 定性的評価  | (定性的評価)  |
| 学術情報・データ蓄積等の発信 (掲載)・アクセス件数・ダウンロード件数                 | 243万件  | (122万件)  |

## 1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

### 業績評価にかかるスケジュール

| 時期                       | 内容                                                                                   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 2024年12月<br>～<br>2025年3月 | 専門委員による論文等の評価                                                                        |
| 2025年4月                  | アジ研業績評価委員会の開催<br>※評価を頂くための研究所からの説明の場合<br>↓                                           |
| 2025年5月                  | 業績評価委員による評価票の記載<br><br>研究所にて評価票の集約・とりまとめ<br>↓<br>業績評価委員会の評価を踏まえ、ジェトロ全体の法人評価（自己評価）の作成 |
| 2025年6月                  | ジェトロ全体の法人評価（自己評価）の確定<br>↓<br>6月末までに法人評価（自己評価）を経済産業大臣に提出                              |
| 2025年8月                  | 経済産業大臣による評価確定                                                                        |
| 2025年9月                  | 法人評価結果の公表                                                                            |

### アジア経済研究所 業績評価委員会 委員一覧

| 氏名    | ご所属                     |
|-------|-------------------------|
| 宇山 智彦 | 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授 |
| 絵所 秀紀 | 法政大学 名誉教授               |
| 大庭 三枝 | 神奈川大学法学部 教授             |
| 重富 真一 | 明治学院大学国際学部長             |
| 杉木 明子 | 慶応義塾大学法学部 教授            |
| 戸堂 康之 | 早稲田大学政治経済学術院 教授         |
| 中西 久枝 | 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教授 |

（五十音順）

## 2. 外部業績評価の結果

## 2. 外部業績評価の結果

### 専門委員による研究成果物の評価結果（5点満点）

- 刊行（予定を含む）された書籍・論文のうち以下の10点を対象に、それぞれ2名の専門委員が評価を実施。
- 外部専門委員による総合評価の平均は4.95点

|    | 単行書または論文名                                                                                                                                                                                                                                                                          | 種別  | 総合 | 総合平均 |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|------|
| 1  | 佐藤章編『サハラ以南アフリカの憲法をめぐる政治』アジア経済研究所、2024年12月                                                                                                                                                                                                                                          | 単行書 | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 2  | 太田仁志編『アジア諸国・地域の「新しい労働運動」—韓国、台湾、フィリピン、タイ、バングラデシュ、スリランカー』アジア経済研究所、2025年1月                                                                                                                                                                                                            | 単行書 | 5  | 4.5  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 4  |      |
| 3  | 中川雅彦著『朝鮮民主主義人民共和国の党軍関係』アジア経済研究所、2025年1月                                                                                                                                                                                                                                            | 単行書 | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 4  | 大塚健司編『アジアのワンヘルス—人・動物・環境の健康をめぐるリスクとガバナンス—』アジア経済研究所、2025年2月                                                                                                                                                                                                                          | 単行書 | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 5  | 道田悦代著『サステナブル認証のルール形成—グローバル・サプライチェーンをめぐる協議と競争』日本評論社、2025年3月                                                                                                                                                                                                                         | 単行書 | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 6  | KIKUTA, Kyosuke, "The Drowning-Out Effect: Voter Turnout and Protests", Political Behavior (2024)                                                                                                                                                                                  | 論文  | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 7  | MAKINO, Momoe, "Labor Market Information and Parental Attitudes toward Women Working Outside the Home: Experimental Evidence from Rural Pakistan", Economic Development and Cultural Change (2024).                                                                                | 論文  | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 8  | ZHOU, Yang. "Benefits and costs: The impact of capital control on growth-at-risk in China," International Review of Financial Analysis (2024).                                                                                                                                     | 論文  | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 9  | 三浦航太「政治エリートの一部か、政治エリートへの抗議者か—政治不信の時代のチリにおける学生運動への信頼に関する分析—」アジア経済、第65巻、3号、pp.97-125..                                                                                                                                                                                               | 論文  | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |
| 10 | LI, Meng; MENG, Bo; GENG, Yong; TONG, Fan; GAO, Yuning; YAMANO, Norihiko; LIM, Sunghun; GUILHOTO, Joaquim; UNO, Kimiko; CHEN, Xiaohong, "Inequitable Distribution of Risks Associated with Occupational Heat Exposure Driven by Trade", Nature Communications, Vol. 16 (2025) 537. | 論文  | 5  | 5.0  |
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |     | 5  |      |

総合評価平均 = 4.95

- 評価軸（２）「創出された研究成果」および評価軸（３）「実施した学術ネットワーク活動」について、各業績評価委員の評価を集約。

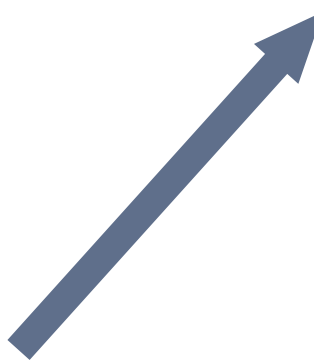
### 評価軸（２）創出された研究成果

- ① 単行書・論文等に関する評価
- ② 実施した研究課題に関する評価
- ③ 研究活動全般に関する評価

### 評価軸（３）実施した学術ネットワーク活動

- ① 意義が大きい活動に関する評価
- ② 学術ネットワーク活動全般に関する評価

評価票のとりまとめ



アジア経済研究所  
（自己評価）

ジェトロ全体の自己  
評価に反映

ジェトロ全体の  
法人評価  
（自己評価）

ジェトロ全体の自己  
評価結果を提出

主務大臣

### 評価軸（２）創出された研究成果（研究活動全般に関する評価）

- 研究テーマの深みと広がりにおいて、世界的に類のない研究活動を推進していることは明らかである。
- マクロな視点とミクロな視点、理論と実証、先端的な研究と基礎的な研究のバランスが全体としてよく取れている。
- 実務的に必要とされる研究がタイムリーに行われ、成果を収めているものも少なくない。
- とくにIDE-GSMを用いたシミュレーションおよびサプライチェーン脆弱性指標のOECD公式統計への採用・公開は、アジア経済研究所ならではの、社会に対する大きな貢献である。
- 英文ジャーナルに掲載される論文数が増加だけでなく、Q1、Q2に分類される学術誌に投稿される比率が伸び、海外からの論文のアクセス数も増加しており、質の高い研究成果が国内へ発信されていることも評価したい。
- 学術書や研究論文だけでなく、IDE Discussion Paper、IDEポリシーブリーフ、Research Columns、IDEスクエアなどの媒体によって新たなアイデアや現地情報などが発信されており、専門家や実務家だけでなく、一般の方々にも理解しやすい途上国情報が提供されていることも評価に値する。
- 研究成果の多くがウェブ上でアクセスできること、また多くがオープンアクセスになっていることについても高く評価している。（略）IDEスクエアも社会的ニーズに合致した形で質の高い情報発信をしている大変有意義な活動であると評価する。
- 学術的な成果を基にしていることは、evidence-based policy making（EBPM）が重視されている現在、非常に大きな価値を持つ。
- 大学では研究者個人に任されているアウトリーチ活動を、組織的にサポートしながら実施していることがアジ研の強み。

## 評価軸（2）創出された研究成果（実施した研究課題に関する評価）

89件の研究課題のうち、特に実施する意義を高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究課題と評価コメント

|   | 研究課題名                      | 業績評価委員による主な評価コメント                                                                                                                                                                                                                            |
|---|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 『米中貿易紛争の経済的影響』             | <ul style="list-style-type: none"><li>マクロ的な研究に見えるが、実際には特に中国の対外直接投資や東南アジアに対する経済パワーの拡大のメカニズムを分析したものであり、米中貿易紛争という<u>日本やアジア経済にとってきわめて重要な課題に対し、国際的なチーム構成で挑んでいる点が評価できる。</u></li><li>事態が激しく変化しつつある、ただ今進行中のテーマで、<u>社会的ニーズはきわめて高いものがある。</u></li></ul> |
| ② | 『経済地理シミュレーションモデルに基づく研究』    | <ul style="list-style-type: none"><li>トランプ米政権の関税政策に対応した予測は<u>世界的にも最も早くかつ精度の高いものの1つで、社会的意義が極めて大きい。</u>学術的にも（略）<u>他の一般的なモデルにくらべて優れたものとなっていることも高く評価したい。</u></li></ul>                                                                           |
| ③ | 『構造再編を迎えるグローバル・バリューチェーンIV』 | <ul style="list-style-type: none"><li><u>現在世界で起こっている構造再編の実態を把握する上で非常に有用</u>である。（略）アジア経済研究所が<u>グローバル・バリューチェーン研究の日本における拠点、また世界におけるこの研究のネットワークの結節点として機能</u>していることをうかがわせる。</li></ul>                                                             |
| ④ | 『アジア諸国の動向分析』               | <ul style="list-style-type: none"><li>本邦の専門家、政策立案者、メディア、アジアに関心のある一般市民など様々な読者にとって非常に有用な情報を継続的に提供しており、<u>社会的ニーズも極めて高い。</u>（略）<u>日本社会におけるアジア理解へ多大な貢献をなしている点でその意義を高く評価</u>すべき。</li></ul>                                                         |
| ⑤ | 『グローバルな世論調査データを使った紛争の分析』   | <ul style="list-style-type: none"><li>ジェンダーや紛争、選挙に関する様々なテーマを外生的なショックを活用して因果関係を識別する手法を用いながら分析したものであり、先端的な政治学の動向を踏まえた研究であり、<u>ジェンダーや紛争が世界的に問題となっている中で、社会的な意義は大きい。</u></li></ul>                                                                |
| ⑥ | 『ビジネスと人権—グローバルトレンドとアジア』    | <ul style="list-style-type: none"><li>人権規範にもとづく企業のCSRが広く認知されてきた現代において当研究は<u>学術的にも、実務的にもニーズが高い。</u>ビジネスと人権の相関関係を分析する上では、多様なアクターの動向を配慮した学際的研究が不可欠である。<u>このような研究プロジェクトはアジア経済研究所であるからこそ実施できる研究課題。</u></li></ul>                                  |
| ⑦ | 『麻薬密輸ルートにおける犯罪政治』          | <ul style="list-style-type: none"><li>本研究課題は、麻薬密輸ルートに焦点をあて、犯罪組織や犯罪政治の実態を明らかにすることを目指す意欲的な研究である。<u>地域のニーズに即しており、有効な政策提言の可能性もあることから、本研究課題の意義は高い。</u></li></ul>                                                                                  |

## 評価軸（2）創出された研究成果（単行書・論文等に関する評価）

研究成果物のうち、高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究成果物と評価コメント

## 『朝鮮民主主義人民共和国の党軍関係』

中川雅彦著（アジア経済研究所）  
2025年1月刊行

## 内容紹介

朝鮮民主主義人民共和国では1948年の建国当初から最高指導者による疑似王朝的な政治体制が維持されている。その最大の要因のひとつに、最高指導者と軍隊の密接な関係性がある。本書ではまず前提として、軍隊の規模と政治機関での議席数による社会的地位を考察し、人民軍部隊のコードナンバーに関する調査を行った上で、金日成時代における軍隊の建設と軍隊統制の仕組みが形成されていく過程、金正日が軍隊を掌握していく過程が明らかにされ、金正恩時代に入ってから軍隊統制の変化が示されている。



## 業績評価委員による評価コメント

- **圧倒的な研究成果**。新規性、独自性、社会的ニーズ、どの面からも高く評価できる。
- 北朝鮮の兵員の数の推移などを様々な資料を用いて慎重に推計し、ミタリー・バランスなどの推計の違いを指摘している点など、**北朝鮮の事態について極めて重要な情報を提供している**。
- 30年以上、漏れこぼれるわずかな情報を拾い集め、積み上げて書き上げられた本書は、**日本のみならず世界的にも類がないのではないかな。アジ研というインフラが生み出した研究業績である**。本書の内容は、北朝鮮の党軍関係にかかわる事実を丹念に記したものであり、**資料的な価値が非常に高い**。
- 本書は複数の資料を繋ぎ合わせ地道な研究を積み重ねることで実証的に党軍関係を明らかにしている。**このような緻密な研究はアジ研のようなシンクタンクに所属する研究者だからこそ可能であったと言える。本書は学術的にも社会的にもニーズの高い研究書であり、高く評価する**。

### 評価軸（2）創出された研究成果（単行書・論文等に関する評価）

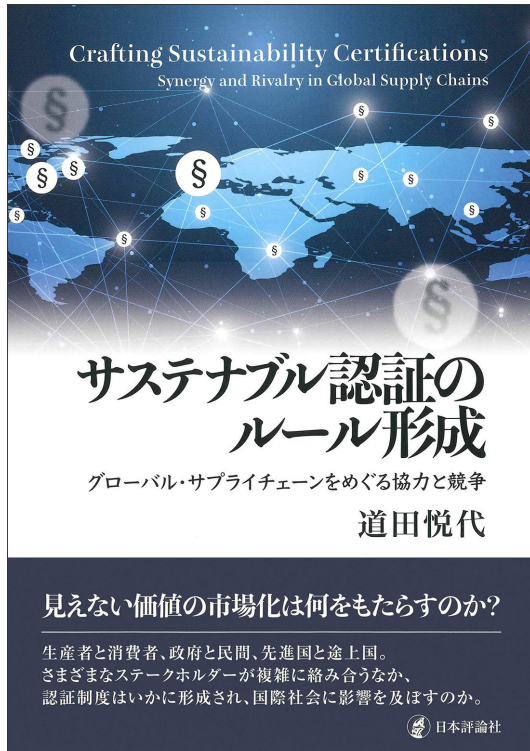
研究成果物のうち、高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究成果物と評価コメント

『サステナブル認証のルール形成—グローバル・サプライチェーンをめぐる協  
力と競争—』

道田悦代著（日本評論社）  
2025年3月刊行

#### 内容紹介

「サステナブル認証」と呼ばれる  
制度の概要、制度形成の過程や普及  
の実態、国際的影響などを基礎から  
解説。



#### 業績評価委員による評価コメント

- 今後の日本経済、世界経済の動向を左右する極めて重要な研究テーマについて先駆的な本格研究である。本書を活用できる対象が政府、企業、一般市民、市民社会組織など幅広い点も有用性が高い点も評価できる。
- 膨大な先行研究を基に、今後トランプ米政権によってサステナビリティに関連した国際ルールが変化する可能性がある中で、日本がどのように途上国とつきあっていくべきかについて多くの示唆を提供している。学術的な研究を踏まえた上での成果のアウトリーチに尽力していることを高く評価したい。
- 全体像を捉えるのは極めて困難である「サステナブル認証」の制度概要、成立経緯、実態についてバランスよく書かれていて、教育と研究の知的インフラを形成するものとなることはまちがいない。
- 学術的にも実務的にもニーズが高い問題を様々な研究領域の専門家が参画することで学際的に分析されており、その優れた研究成果は高く評価できる。

## 評価軸（２）創出された研究成果（単行書・論文等に関する評価）

研究成果物のうち、高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究成果物と評価コメント

*Labor Market Information and Parental Attitudes toward Women Working Outside the Home: Experimental Evidence from Rural Pakistan*

論文タイトル：

***Labor Market Information and Parental Attitudes toward Women Working Outside the Home: Experimental Evidence from Rural Pakistan***

著者：

Momoe Makino

掲載ジャーナル名：

*Economic Development and Cultural Change*

### 業績評価委員による評価コメント

- 現地社会に密着した調査から得られたデータによってランダム化比較試験を行い、説得力のある結論を導き出している。
- アカデミックな意義にとどまらず、社会的意義も高いと考える。（略）パキスタンにとどまらず、途上国、また先進国の一部の保守的な社会の変化を促す上でも重要な示唆を与える研究である。

*The Drowning-Out Effect: Voter Turnout and Protests*

論文タイトル：

***The Drowning-Out Effect: Voter Turnout and Protests***

著者：

Kyosuke Kikuta

掲載ジャーナル名：

*Political Behavior*

### 業績評価委員による評価コメント

- 理論的にも実証的にも最新の研究を踏まえた優れた業績であると評価できる。丁寧な識別戦略に基づいた因果推論によって紛争や選挙、ジェンダーに関連した政治的テーマの分析を高く評価したい。
- 投票参加と抗議運動の相関関係を理論的に分析した論考。ゲーム理論から仮説を導くとともに、因果推論の手法により両者の関係を考察する分析アプローチを提示したことと、投票行動と抗議運動との関係を政治学において研究するための新たな視座の提供を高く評価したい。

## 評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（学術ネットワーク活動全般に関する評価）

- 総合的に見て、多方面において学術ネットワーク活動が実施されており、国際的な研究のハブ機能および学術情報プラットフォームとしての機能を十分に発揮した。
- 海外の研究機関・行政機関・国際機関との連携も進んでいる。
- 実務と学術領域を架橋した取り組みであり、アジ研ならではの独自性や専門性が活かされており（略）特筆に値する。
- MOUも形式的なものに終わってしまうこともある中で、BRIN、IIAS、アジスアベバ大学とのMOUにおいては、具体的な共同研究もしくは客員研究員の受け入れにつながったことは評価したい。
- 海外研究員制度による研究者の研究対象国への長期にわたる滞在などを通じて、所属する研究員が現地との人的ネットワークを構築することは、研究所の国際的な研究ネットワークにおけるプレゼンス拡大にも繋がる。研究員が実質的に内外の研究者や専門家、またそれらを有する機関との連携を深める機会提供を行うことは重要である。
- 専門性を持つライブラリアンが発信する情報の提供やデジタル・アーカイブ化はアジ研の基幹活動の一つとして継続してほしい。
- アジア経済研究所が国内外の学術ネットワークのハブとして機能するためには、研究員の派遣のみならず、客員研究員の受入をより一層積極的に進めていく必要があり、またそのためには客員研究員の待遇改善を含めた環境整備が課題なのではないだろうか。

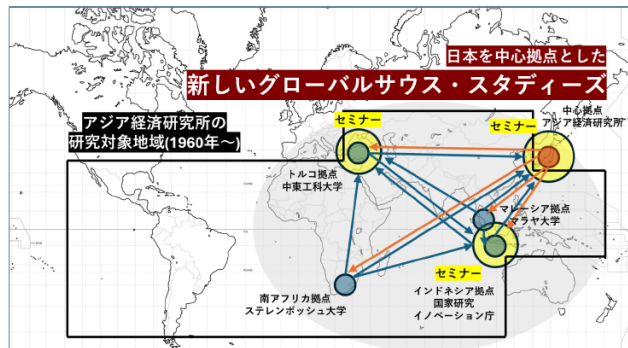
### 評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

#### 研究拠点形成事業（アジア・アフリカ学術基盤形成型）



- 地域における中核的な研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする事業。
- アジア・アフリカ地域に特有・重要と認められる研究課題、かつ日本が重点的に研究することが有意義と認められる課題に対して日本学術振興会が最大3年間支援（年間10課題程度）。
- アジア・アフリカ諸国2か国以上を主たる相手国とし、「共同研究」、「セミナー」、「研究者交流」を効果的に組み合わせて実施。
- 支援期間終了後も、当該分野における中核的な国際研究交流拠点としての継続的な活動が期待されるもの。



#### 業績評価委員による評価コメント

- 外部資金の獲得としても、本格的な国際研究交流拠点の形成としても、アジ研のさらなる機能強化の大きなステップとなりうる。
- アジア経済研究所ならではの強みを発揮できる。
- 今後、グローバル・サウスと称される新興国・途上国の国際社会における影響力が増す中で、研究拠点形成事業に応募し、採択されたことで、アジア経済研究所のアジア・アフリカの学術的研究における研究拠点形成への意思を示したこと、またそれを活用しての事業を進めたことは高く評価するに値する。
- グローバルサウス諸国との研究ネットワークを拡大するという意味で、アジ研ならではのものであり、また特に若手研究者の育成を目的としていることから、若手が急速に育っているアジ研において実施する意味は大きい。この事業が実際に共同研究によって高い学術的成果を達成するとともに、日本とグローバルサウスとの長期的な知的連携を深化させることを大いに期待したい。

## 評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

### TICAD9に向けたアフリカとの知的共創

#### 世界銀行・朝日新聞社との国際シンポジウム

- これまで関係構築を続けてきた、世界銀行、朝日新聞社との共催で国際シンポジウム「アフリカはいま：未来を担う若い大陸のチャンスとチャレンジ」を開催。
- アフリカ地域に関わる研究ハブとしてのネットワークを活かし、アフリカのガバナンス分野の研究者で、グローバルサウスに精通した有識者を基調講演者として招聘。
- 世界銀行東南部アフリカ担当副総裁より、「生産性・収入の増加と貧困削減の加速のための機会の拡大」について報告。
- アジ研研究者のほか、朝日新聞社の現地支局長をパネリストに迎え、ディスカッションでは「若者の政治意識の高まり」、「貧困層の実態把握」等について議論。



パネルディスカッションの様子（世界銀行・朝日新聞社との国際シンポジウム）

### 業績評価委員による評価コメント

- 世界銀行などと協力して、アフリカのチャンスとチャレンジについてのシンポジウムやセミナーを積極的に開催していることは、ますます重要になるアフリカ諸国との関係を後押しし、アフリカについての認識を社会に広めるために有益である。
- 世銀のアフリカ地域担当者が、メディアの現地支局長などを有効に巻き込んでいる。参加者も比較的多く、今後のアフリカ地域の将来を研究対象とするのみならず、人的・社会的ネットワークに発展させる事業となっている。
- 2025年に開催される第9回東京アフリカ開発会議に向けて世界銀行と朝日新聞等との国際シンポジウムや世界銀行とのセミナーを実施されたが、このような企画が実現したのはアフリカ地域の研究のハブであるアジ研だからこそ実現できたことである。

### 評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

#### ERIA及び東アジア16カ国の研究機関との関係深化

##### RIN年次総会@バンコク

- **RIN機関間の関係深化**を目指し、意見交換の場として年次総会をERIAと共催で開催。
- **最新の重要テーマに対し、RIN機関の若手研究者の発表を基に議論する試みを初めて実施。**産業の脱炭素化、AI等について議論を深めた。



##### RINオンラインワークショップ

- **RIN機関間の研究交流の深化**を目的に2020年度から開催。2024年度は現在の世界経済の伸び悩みを踏まえ、**持続可能な社会実現に必要な施策や分野について幅広い議論の場を提供**すべく、RIN機関およびERIAと共にオンラインワークショップ(全4回)を**アジ研が主唱して開催**。



#### 業績評価委員による評価コメント

- 東アジア・東南アジアの研究機関との交流が着実に深化している。
- RINとの関係が実質的に強化されているため、学術情報プラットフォームとしての機能を深化させている。
- ERIAは日本がその運営や活動に貴重な貢献をしてきた国際機関であり、東アジア諸国との研究ネットワーク構築を進めるのにこの機関を活用することは効果的かつ有用であると考えます。

## 評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

### アジア情報研修

- アジ研と国立国会図書館のライブラリアンが講師となり、毎年、アジア関連情報の収集方法を講義・実習する研修を国立国会図書館で実施
- 教育機関・公共図書館のライブラリアンや研究者のスキル向上に貢献するとともに、参加機関との連携を強化
- アジ研の科目では、2024年3月にタイ国家統計局から統計資料1千冊以上を受贈したこと踏まえ、**拡充されたタイの統計コレクションとその資料価値をアピール**

### 資料展「東南アジア 激動の時代の雑誌展」

- 京大東南研図書室とアジ研図書館の共催で、両館の**東南アジアの貴重な雑誌**を展示
- 赤木攻大阪外国語大学名誉教授を招き、講演会「**言論爆発を刻んだタイの雑誌**」を併催。「非常に知的刺激に富んだ内容」と反響あり

### 大学出張講座で次世代の育成支援

- 初の試みとして、ライブラリアンが大学のゼミに出張して講義する**大学出張講座**を実施
- 次世代の利用拡大につながる、**アジ研図書館や地域研究への興味関心の喚起**に成功

### 業績評価委員による評価コメント

- ・ 図書館はアジ研の重要な資産であり、アジア関連情報の収集方法を講義・実習する研修も、アジ研図書館ならではの事業である
- ・ 国会図書館や京CSEASなどと実質的な連携に基づくため、アジア経済研究所が文字通り、学術情報プラットフォームの重要な担い手となっている実態を示す事業である。
- ・ アジ研の図書館は単なる文献だけでなく、人材的にすばらしいリソースをもっている。世界で唯一と言ってよい。